

大会ハイライト

ヴロツワフ大会での日本選手の健闘を
ハイライトでご紹介します。

日本選手金メダル第1号は 男子ボルダリング

7月20日、ヴロツワフ・スタジアムで行われた開会式に4万人の観衆が詰めかけ、大歓声のなか大会の幕が切って落とされた。

競技初日は、2020年東京オリンピックの追加競技となるスポーツクライミング(ボルダリング)とライフセービングが行われた。男子ボルダリングでは、緒方選手が初出場で見事金メダルを獲得し、今大会日本選手メダル第1号となった。続いて、女子ボルダリングでも、同じく初出場の野中選手が銀メダル。快調な滑り出しで日本選手団に勢いをつけた。ライフセービングの男子4×50m障害物リレーでは、世界記録を塗り替える1分36秒62をマークし、日本チームが頂点に輝いた。佐藤監督は、「ワールドゲームズ出場を目標に掲げ取り組んできましたが、初出場で金メダル、それも世界新記録での勝利に喜びでいっぱいです」と笑顔で振り返った。

続く競技2日目のエアロビック・トリオでは、金井選手、北爪選手、斉藤選手が、2位中国、3位フランスに大差をつけ優勝。相撲では、ワールドゲームズ3度目の出場となる太田選手が女子中量級で銀メダルを手にし、3大会連続でメダル獲得の快挙を成し遂げた。兄弟で出場した黒川宗一郎選手・宏次朗選手は、男子重量級の3位決定戦で対戦し、兄の宗一郎選手が銅メダルを勝ち取った。

競技3日目は、クライミングの男子リードで是永選手が金メダル、波田選手が銀メダルを獲得し、初日のボルダリングに続いて日本の競技レベルの高さを証明した。相撲は、前日に重量級で銅メダルを獲得した黒川宗一郎選手と三輪選手の日本選手同士が、男子無差別級の3位決定戦で対戦し、押し出しで三輪選手が銅メダルをつかんだ。相撲競技3日目のメダル獲得となり、日本の国技の迫力に観衆も大いに魅了された。

競技4日目、ワールドゲームズ4度目の出場となるパワーリフティングの福島選手は、女子ライトウエイトで銀メダルを手にし、通算4個目のメダル獲得の偉業を達成。体操のトランポリンでは、中園・石川ペアが男子シンクロナイズドで銅メダル。2009年の第8回大会以来2大会ぶりのメダルとなった。



空手 男子形で優勝した喜友名選手、表彰台の様子

開会式の様子。
4万人の大観衆に
見守られるなか、
各国の選手団が入場

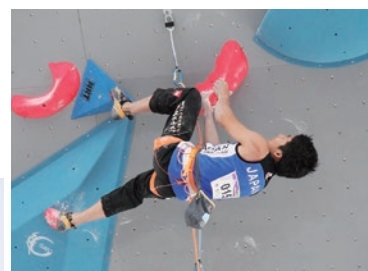


男子ライフセービング。
4×50m障害物リレーで
金メダルを獲得した
(左から安藤選手、
幅野選手、
西山選手、平野選手)



4大会連続メダルの
パワーリフティング福島選手

男子リードで金メダルを
獲得した是永選手
[写真提供:日本山岳・スポーツクライミング協会]



大差で優勝した
エアロビック・トリオ日本チーム。
左から金井選手、杉原コーチ、
北爪選手、斉藤選手
[写真提供:日本エアロビック連盟]

空手は日本選手全員がメダルを獲得

折り返しとなる競技5日目、注目の空手初日は、男子形の喜友名選手、女子形の清水選手ともに金メダル。清水選手はこの日、日本選手唯一のアスリート・オブ・ザ・デイ[※]を受賞した。初優勝を果たした喜友名選手は、「前回大会での悔しさをばねに稽古をしてきました。優勝できてとてもうれしいです」と喜びを語った。女子組手-50kgに出場した宮原選手は、決勝戦で惜しくも敗れ、銀メダル。アーチェリーの男子リカーブでは、ワールドゲームズ初出場の大貫選手が、準決勝で接戦の末アメリカに敗れたが、続く3位決定戦で勝利。銅メダルを獲得した。

空手2日目となった競技6日目、女子組手+68kgの植草選手は、前回大会に続き金メダルの快挙。さらに男子組手+84kgの香川選手がイランの選手に勝利し、金メダルを獲得した。前回大会金メダリストの染谷選手は、女子組手-68kg準決勝で敗れたものの3位決定戦で完勝し、銅メダルを手にした。同じく、前回大会金メダリストの荒賀選手は、決勝戦で惜しくも敗れ、銀メダル



空手 女子組手+68kgの植草選手は2大会連続金メダルの快挙

となったが、「死に物狂いで練習をして、2020年の東京オリンピックでは金メダルを獲りたい」とオリンピック出場へ意欲を見せた。 ※その日最も良いパフォーマンスを見せた選手に贈られる賞

日本初となるメダル獲得競技が続々

競技7日目は、ウエイクボードの男子フリースタイルで、初出場の手塚選手が優勝。種目としては第6回大会以来、4大会ぶりの金メダルとなった。手塚選手は「金メダルを獲得できてとてもうれしい。これを通してウエイクボードをたくさんの人に知っていただきたい」と、ウエイクボード競技の発展に期待を寄せた。

競技8日目、柔術男子62kg寝技の倉岡選手が、3位決定戦でイスラエル選手を制し銅メダル。柔術でのメダル獲得は日本初となり、ワールドゲームズ初出場にして快挙を成し遂げた。

競技9日目のビリヤードでは、初出場の大井選手が、男子プールで銅メダル。ビリヤードでの日本初のメダル獲得となった。

最終日の閉会式では、次回開催地アメリカのバーミングハム市長にワールドゲームズ旗が手渡され、4年後の大会に向けバトンが引き継がれた。選手たちの活躍に胸を躍らせた多くの観衆がフィナーレを盛り上げ、11日間におよび大会の幕を閉じた。



ウエイクボードで4大会ぶりに金メダルを獲得した手塚選手



柔術で日本初のメダルを獲得した倉岡選手

閉会式では、選手・役員・ボランティアなど数千人が集まり、セレモニーに華をそえた



日本選手メダル獲得一覧

日本選手団は、金9、銀6、銅7の計22個のメダルを獲得。

前回大会を大きく上回る結果を残しました。

[前回大会:2013年:金5、銀1、銅4 計10個 公式競技のみ]

競技	種目		
体操	エアロビック・トリオ	金井拓海	金
		北爪凜々	
		斉藤瑞己	
空手	+84kg 組手	香川幸允	金
空手	+68kg 組手	植草歩	金
空手	形	喜友名諒	金
空手	形	清水希容	金
ライフセービング	4 × 50m 障害物リレー	安藤秀	金
		西山俊	
		幡野圭祐	
		平野修也	
スポーツクライミング	ボルダリング	緒方良行	金
スポーツクライミング	リード	是永敬一郎	金
水上スキー・ウエイクボード	フリースタイル	手塚翔太	金
空手	-84kg 組手	荒賀龍太郎	銀
空手	-50kg 組手	宮原美穂	銀
パワーリフティング	ライトウエイト級	福島友佳子	銀
スポーツクライミング	リード	波田悠貴	銀
スポーツクライミング	ボルダリング	野中生萌	銀
相撲	中量級	太田麻乃	銀
アーチェリー	リカーブ	大貫渉	銅
ビリヤードスポーツ	プール	大井直幸	銅
体操	トランポリンシンクロナイズド	中園貴登	銅
		石川和	
柔術	62kg 寝技	倉岡 ジョナルロス博	銅
空手	-68kg 組手	染谷香予	銅
相撲	重量級	黒川宗一郎	銅
相撲	無差別級	三輪隼斗	銅

Medalist Inte

空手 女子形 金メダリスト 清水希容選手

——ワールドゲームズに初出場した感想をお聞かせください。

ワールドゲームズは大きな大会であったため、気持ちを入れて臨みました。普段の大会と環境が違い戸惑いもありましたが、それが刺激となり、挑戦できた大会となりました。日本の空手チームが健闘し、メダルを獲って帰れたことを大変誇りに思います。決勝戦は、自分としてはもっと出来る部分があったと思うので、2020年の東京オリンピックではさらに良い

演武を見せられるように頑張ります。また、「アスリート・オブ・ザ・デイ」という大変光栄な賞を頂きました。賞に恥じぬよう、また次の高みを目指していきます。

——空手の魅力とは。

空手は組手^{かた}と形があります。組手はダイナミックな技や試合運びが魅力です。寸止めで突きや蹴りを相手の顔や腹などに決め、採点方式で勝負が決まります。わたしは形の選手ですが、形の難易度と、スピードやキレ、もともと決まっている形をどう表現するか、自分の良さをどれだけ見せられるかがポイントになります。簡単な



ように難しい、奥の深い競技です。

——2020年の東京オリンピックに向けての意気込みは。

東京オリンピックまでの3年を、どのように取り組むかが大切になると思います。目標はもちろん優勝ですが、それ以上に良い演武をして、印象に残る選手を目指したいです。応援して下さる方には、生で空手を見ていただきたいと思います。組手の迫力や形の良さを肌で感じてもらえると思うので、ぜひ一度会場に足

を運んでみてください。私も良い演武、良い結果を残して、皆さんに見ていただけるように頑張ります。



競技開催日別にその日最も良いパフォーマンスを行った選手に贈られる「アスリート・オブ・ザ・デイ」を受賞。日本選手で唯一の受賞となった



Profile

しみず・きよう 1993年12月7日大阪府生まれ。ワールドゲームズ2017に初出場し、女子形で金メダルに輝く。そのほか、2016年の世界空手道選手権オーストリア・リンツ大会女子KATA優勝(2連覇)、同年第44回皇后杯全日本空手道選手権女子KATA優勝(4連覇)、2017年プレミアリーグ ロッテルダム女子KATAで優勝するなど、数々のタイトルを獲得。

ワールドゲームズ競技種目の中から、空手、スポーツクライミング、野球・ソフトボール、サーフィン、ローラースポーツ（スケートボード）の5競技が、2020年の東京オリンピックの追加競技として採用が決まっています。

このうち、今大会で金メダルを獲得した、空手の清水選手、スポーツクライミングの緒方選手にインタビュー。大会を振り返るとともに東京オリンピックへの意気込みなどを伺いました。

スポーツクライミング 男子ボルダリング 金メダリスト 緒方良行 選手

——ワールドゲームズに初出場した感想をお聞かせください。

ワールドゲームズは、4年に一度の貴重な大会という思いがあったので、優勝を目指して挑みました。世界大会で初めて優勝することができ、2020年の東京オリンピックへ弾みがつきました。スポーツクライミングは大会初日の競技だったので、メダルを獲って日本チームに勢いをつけたいと思っていました。他の競技の日本選手も良い成績を収められたことが

うれしかったです。開会式では、他の競技の方と交流をしたり大観衆の中で入場したりと、初めての経験が多く勉強になりました。大きな舞台に挑戦したことで、より一層オリンピックに対するモチベーションも高まりました。

——スポーツクライミングの魅力とは。

スポーツクライミングは全身を使う競技です。腕や指はもちろんですが、体幹や腹筋、足、全身の筋肉をバランスよく鍛えられます。フィットネス感覚で始める人も多く、老若男女問わず楽しめるスポーツで



す。クライミングのジムは意外と身近にあると思うので、気軽に始めてみてほしいと思います。

——2020年の東京オリンピックに向けての意気込みは。

スポーツクライミングは日本選手のレベルが非常に高いので、東京オリンピックでもぜひ期待していただきたいです。最近はSNSでもコメントを頂いたり、応援してくださる方のメッセージが自分の励みになっています。私自身まずは、3年間でさらに力をつけて代

表選手になれるように頑張ります。そして、出場するからにはもちろん金メダルを目指します。

写真提供:日本山岳・スポーツクライミング協会



日本選手メダル第1号となる金メダルを獲得。同じく初出場で銀メダルを獲得した女子ボルダリングの野中選手（写真左）とともに東京オリンピックを目指す



Profile

おがた・よしゆき 1998年2月4日福岡県生まれ。小学5年生の時に、スポーツクライミングを始める。ワールドゲームズ2017に初出場し、男子ボルダリングで金メダルを獲得。他大会では、2017年IFSCクライミング・ワールドカップボルダリング ベイル3位、同年IFSC世界ユース選手権では、ボルダリング、リードで優勝するなど全種目で表彰台に立った。